1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3070102441
法人名	社会福祉法人河西福祉会
事業所名	グループホームぷすぷす
所在地 (電話番号)	和歌山市松江東1丁目7-25 (電話) 073-454-8900

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山市手平2丁目1-2		
訪問調査日	平成20年1月28日	評価確定日	平成20年2月21日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算 6.6人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	3 階建て	3 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	実費 円	昼食 420 円
	夕食	420 円	おやつ 実費 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.7 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人青松会 河西田村病院 ・医療法人 井上病院 ・さわもと歯科医院
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は利用者一人ひとりの性格・特徴を把握し、一緒に過ごしなが、調理方法や味付けの仕方を利用者には教えてもらったり、仕事で大変なときにいたわりの言葉を職員にかけてくれる。ともに支えあう「お互いさま」という関係を築けるように努めている。また、かかりつけ医や職員の看護師が居室診療する等、健康管理が行き届いている。ベランダに花や野菜を植え、活動の場にし、背景の緑地帯とともに、室内からも3階にいないと思えないような景観をつくりだしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善課題は、運営推進会議の議題とし、それぞれの項目について改善の方法を話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員が評価したものを話し合っ、ホームとしてまとめている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、自己・外部評価の改善課題への取り組みの状況や、家庭的な雰囲気づくり、ヒヤリ・ハットの記録、地域との交流、利用者の食事代金等、ホーム運営上の取り組みについて話し合い意見を求めた。メンバーから出された意見は、運営に活かして取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見・相談等については相談窓口を設け、家族に周知を図っている。意見・苦情等が出されたときは、希望に沿えるよう対応している。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人々の集まる法人の夏祭や、近くの神社の祭りに参加したり、近隣の幼稚園児との交流等が行われているが、自治会・老人会など地域活動に参加し、地域の人々と交流するところまでは至っていない。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がやすらぐ居場所を提供し、不用意に手を差しのべないで見守り、楽しく活気ある暮らし、最後まで社会性を求めていることを援助するという独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい共同室の壁面に明示しており、職員は毎朝のミーティングで復唱し、日常の業務を行う時に理念を念頭において取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々が集まる法人の夏祭や、近くの神社の祭りに参加したり、近隣の幼稚園児との交流等が行われているが、自治会・老人会等地域活動に参加し、地元の人々と交流するところまでは至っていない。	○	利用者の身体的・精神的な事情もあると考えるが、今後、更に地域の人々との交流を図られるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の目的を理解し改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、職員が評価したものを話し合っ、ホームとしてまとめた。前回の外部評価で出された課題は、運営推進会議の議題とし、それぞれの項目について改善の方法を話し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、ホームの現況や外部評価への取り組みの状況、また家庭的な雰囲気づくり、ヒヤリ・ハットの記録、地域との交流、利用者の食事代金等、運営上の問題点についての取り組みを報告し、意見を求めた。メンバーから出された意見は、サービスの向上の参考とし活かしている。しかし会議のメンバーの中に地域の代表が参加していない。	○	地域の代表を選ぶのは、いくつかの困難な事情があると考えられるが、ホームには地域との連携・交流が重視されるので、一員に選ばれるよう、努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営上の疑義等について問い合わせをしている。しかし市とともにサービスの質の向上にまで取り組んでいるとはいえない。	○	所轄市と連携を密にし、サービスの向上となるよう取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月、ホームにおける利用者の生活の様子や行事の写真を記載した「ぷすぷすだより」を送付し報告している。また家族が面会に訪れたとき利用者の日ごろの生活状況を必ず報告するようにしている。お金の預かりは行っていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人に家族の相談や苦情の窓口を設け、第三者委員を置いて対応しており、玄関のカウンターの上にも表示している。また利用者・家族に文書と口頭で説明している。なお家族の意見には希望に沿えるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は出来るだけしないようにしている。新任職員には、利用者それぞれの性格や特徴を知ってもらい、初対面の不安を感じさせないようにコミュニケーションに注意し、徐々に慣れてもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加したり、ホームで勉強会を行っている。また県グループホーム連絡会が開催する研修会に交代で参加している。研修内容は報告し復命書で供覧している。なお新しい職員が入ってきたときは、理念や認知症の人に対する接し方等2～3ヵ月かけ業務を習得してもらうようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会が主催する相互実習に参加している。実習先のケアの方法等を学んだり、また他ホーム職員の来訪を受け刺激になる等、お互いにサービスの質向上の参考としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は、利用者が日ごろ使っていた物を持ってきてもらったり、家族に1日1回顔を見に来てもらったりしている。また同施設内のデイサービスに参加したり、施設全体を知ってもらっている。なお他の利用者との関係がうまくいくよう観察し、徐々に馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に作品展の絵を描いたり、ゲームや外出等をして楽しんでいる。また調理方法や味付けを利用者に教えてもらったり、仕事で大変な時にはいたわりの言葉を職員にかけてくれる等、共に支えあう「お互いさま」という関係を築けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に応じて質問の方法を工夫し、利用者一人ひとりの思いや希望等を把握するよう努めている。困難な場合は家族等から情報を得るよう努め、センター方式も利用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のケアのあり方について、家族の意見や希望を聞いている。意見を取り入れ介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年に3～4回見直しを行っている。また心身等の変化があった時は、関係者間で話し合い、介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院と医療連携体制をとると共に、ホームの看護師及び、診療所の医師・看護師が利用者の居室で診療する等、健康管理を行い、身体の異常時にも対応できる体制がある。なお家族の都合に応じ、病院への移送サービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望するかかりつけ医として、併設の診療所で月2回の受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期にどのように過ごすかについて、本人・家族等と話し合い方針を共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の人格を尊重し、誇りを傷つけ不快な思いをさせる言動がないように注意している。また、個人情報情報は職員の部屋で管理し、漏れないよう注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースにならないように注意し、就寝や起床は利用者のペースで行う等、何事も無理強いしない援助を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、買い物時に食べたい食材を選んでもらったり、味付け・盛り付けや料理の温度等食事を楽しく食べられるように工夫している。なおホームで作った野菜を食べることもある。また食卓の小瓶に季節の花を挿したり、料理の盛り付けや配膳は利用者も一緒に手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後2～5時位に、利用者の希望に応じて温度や時間に配慮し、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴などから過去の経験を活かし、絵を描いたり、編物、食事の手伝い、園芸等、利用者が得意とするものを支援している。数多くの季節の行事を楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節によっては中庭の花見をしたり、希望があれば職員が付き添って、買い物や周辺の散歩、近隣の神社の祭りなどに参加している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は、ホームの玄関の鍵をかけている。居室は利用者の希望がなければ、鍵をかけないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で行う年2回の避難訓練に参加し、避難経路の確認などを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士と相談して献立を作っており、栄養のバランスを考え、また食べる量や水分摂取量もチェック表で把握して対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同室は壁面に行事の写真や家族会の団欒の写真を貼り、利用者が絵を描いたカレンダーを吊している。窓の外に洗濯ものを干したり、またプランターや、ベランダに土を置いて季節の花や野菜を植えており、季節感を感じることができる。部屋は明るくテレビの音も適当と感じた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口は和風の格子戸になっており、室内には趣味の造花や、写真を置いたり、自分で描いた絵を貼って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。		